

## シンポジウム技S-1 高気圧酸素治療業務検定試験に向けて ～臨床工学技士の立場から～

中島正一<sup>1)</sup> 島 弘志<sup>2)</sup> 爲廣一仁<sup>2)</sup>  
瀧 健治<sup>2)</sup> 阪本雄一郎<sup>3)</sup>

- |                                 |
|---------------------------------|
| 1) 社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院<br>臨床工学室 |
| 2) 社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院 救急科      |
| 3) 佐賀大学医学部 救急医学講座               |

### 【はじめに】

医療現場における医療機器の安全管理や操作を担う臨床工学技士の重要性は多くの施設で認識されるようになってきた。高気圧酸素治療においても例外ではなく、そのために日本高気圧環境・潜水医学会も教育の一環として、臨床高気圧酸素治療技師資格認定を開始し教育集会および認定試験を実施してきた。しかし、昨今では保険診療の低迷により全国的に高気圧酸素治療を実施する医療施設が減少傾向にあり、臨床高気圧酸素治療技師の受験者も減少してきている (Fig.1)。

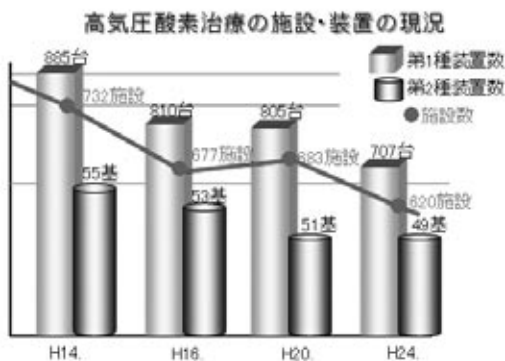


Fig.1

### 【目的】

日本臨床工学技士会は、平成20年9月公布の厚生労働省「新医療機器・医療技術産業ビジョン」に示され、臨床工学技士専門認定制度を設立し、知識や技術の熟練した専門的な技術を指導する専門認定技士の育成を開始した (Fig.2)。高気圧酸素治療分野は、多くの診療科にまたがる専門的知識が必須であることから、日本臨床工学技士会も専門高気圧酸素治療業務検定試験に向けて準備委員会を立

ち上げ事業を検討している (Fig.3)。

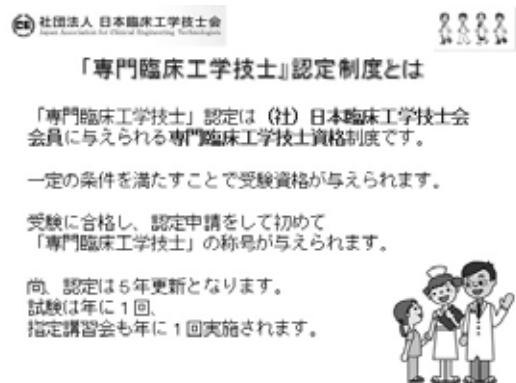


Fig.2



Fig.3

### 【結論】

生涯教育に欠かせない指導者育成研修を通して、技士の質的、技術的、人間性をも育成するための教育は重要であるが、現任者としても数少ないのも現状である。今後は、専門性を持った幅広い知識・技術を取得するための指導者育成を早急に実施し、各現場にフィードバックとスキルアップを行い、患者さんにより良い医療の提供を目指す事が大切と思えた。その後、検定試験に合格した技士本人が如何に生かしていくのが今後の課題と思われた。